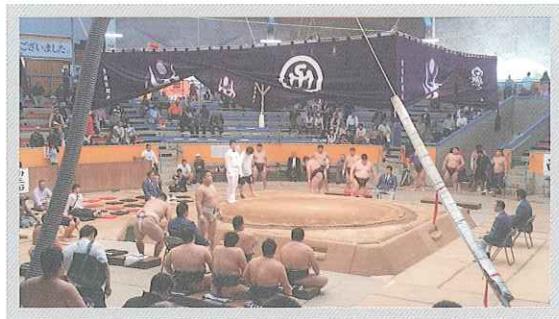


東洋大 団体3連霸! 愛媛県出身選手が団体、個人で大活躍!

第35回全日本大学選抜相撲宇和島大会リポート

執筆／愛媛県相撲連盟副理事長 龍山 義弘

平成30年4月29日に愛媛県宇和島市で第35回全日本大学選抜相撲宇和島大会が開催されました。毎年、4月29日に宇和島市営闘牛場で開催されている本大会も今年で35回目となり、シーズン最初の学生相撲の全国大会ということで、各大学の今年一年の活躍を占う非常に重要な大会となっています。大会には、東・西の学生相撲連盟から選ばれた団体12校と個人戦には地元枠で出場する愛媛県出身者を含む約90人が出場しました。



から優勝候補の呼び声が高かった東洋大学は団体決勝トーナメントに入るとスイッチが切り替わったように本来の力を発揮し決勝戦まで勝ち上がりました。決勝戦は東洋大学と中央大学の対戦となり、本大会3連霸を狙う東洋大学か、25年ぶりの優勝を狙う中央大学か。観客の注目が集まった決勝戦。

地元野村高校出身、二陣の住木、副将の田中を擁する中央大学に観客の声援は集まりましたが、結果は東洋大学が5対0と圧勝。大会史上2校目となる団体3連霸を東洋大学が達成しました。

個人戦では、地元津島高校卒の山口怜央(近大)が準々決勝まで勝ち上がる活躍を見せました。準々決勝戦では日本体育大学のデルゲルバヤルと対戦。何度も土俵際まで交互に寄り合う大熱戦になりましたが、最後は寄り切られ、あと一歩、ベスト4進出(入賞)に及びませんでした。

個人決勝戦は、昨年のインカレで準優勝した近畿大学の元林健治と日本大学の榎波将史の対戦となりました。決勝戦の相撲は、元林が立ち合いすぐに相手の体勢を崩し、右手でまわしを取ると、上手出し投げで制しました。12年間、関東勢に個人優勝を独占していましたが、関西勢、近畿大学の元林が意地を見せ、頂点まで上り詰めました。

本大会、愛媛県出身の選手の活躍に会場は大いに盛り上りました。中大の田中(3年)、近大の山口(2年)、明大の宇都宮(2年)、中大の住木(1年)は、団体戦のレギュラーとして出場。来年度は、団体、個人でさらに上位を目指して活躍することを期待します。

本大会に出場した10人の愛媛県出身選手の中には、一昨年のインターハイで個人優勝し、高校横綱となった近畿大学2年の山口怜央(津島高校卒)、昨年のえひめ国体少年個人の部で準優勝した中央大学1年の住木巖太(野村高校卒)なども出場し、本県出身選手の成長ぶりにも期待と注目が集まりました。

大会は予選から番狂わせが相次ぎ、会場は異様な雰囲気に包まれた。団体で大会最多優勝を誇る日本大学が予選リーグで2敗を喫し、個人戦では優勝候補が揃う東洋大学のレギュラー陣が予選で姿を消す波乱。しかし、大会前



▲左から個人優勝の元林(近大)、2位の榎波(日大)
3位の石崎(日体大)、4位のデルゲルバヤル(日体大)



▲団体優勝 東洋大学のメンバー



▲団体準優勝 中央大学のメンバー